

令和5年度 第2回伊豆市地域公共交通会議 議事要旨

日 時：令和5年9月26日（火）午後1時30分～

場 所：修善寺生きいきプラザ 第1・2会議室

出席者：委員18名（欠席3名）

随行1名、事務局3名

1 開会

2 会 長挨拶

<会 長挨拶>

大変暑い中ご参集いただきありがとうございます。

コロナ禍から3年間、地区懇談会が開催できませんでしたが、今年から再開されています。その中で、高齢化して買い物などに困っているという声を聞きますが、伊豆市はバス路線、鉄道、タクシーも充実しており、バスに乗れなくなったからといって急にドアツードアで移動を支援してほしいというのは飛躍しすぎている感じがします。意識をもって公共交通を残そうとしなければ、行政だけでは残せるものも残せなくなるという認識をもらい、地域と行政、公共交通事業者と今までにないような柔軟なやり方を考えていく必要があると感じています。

まずは議案がありますので、終わり次第時間の許す範囲内で、ご自由なご意見を伺えればと思っております。よろしくお願いいたします。

3 議事

（1）戸田・土肥線について【協議事項】（資料1）

<資料説明>

- ・事務局（沼津市）より資料1について説明

<質疑応答>

- ・質疑なし

<審議>

- ・異議なし、承認

（2）公共交通再編検討業務委託における実態調査報告【報告事項】（資料2）

<資料説明>

- ・事務局より資料2について説明

<質疑応答>

アドバイザー：実態調査結果については、結果をそのまま受け止めて反映するものもあれば、利用実態等を踏まえて補正しなければならない場合もあると思うので、精査しながら進めていただきたい。

委 員：修善寺温泉では休日に20歳代の利用者が3割見られ、若い世代でも公共交通を使っていることが印象的であった。

会 長：伊豆市の構造的な特徴がよく出ていて、年配の方は自家用車を使う反面、若い世代の方は電車を利用してバスに乗り換える人が多いのが伊豆市の特徴である。他

の観光地では自家用車を使う人が多数な状況の中、伊豆市では観光二次交通対策が大きな課題と言える。

(3) 運行ガイドライン（運行基準）の考え方について【協議事項】（資料3）

<資料説明>

- ・事務局より資料3について説明

<質疑応答>

委員：小中学生が通学利用している場合、評価が低い便はどうするのか。

事務局：現行の路線で通学利用されている便は残していくと認識している。一方、現行路線以外の、交通空白地域かつ通学も極端に少ない地域については、今後の通学手段をどうしていくか再検討が必要であると考えている。

会長：伊豆市では路線バスを維持するためにスクールバスを用意するのではなく路線バスで通学してもらおうという考えがあるが、実際に走らせていても使われていない路線もある。それらについては学生の動向も見ながら、個別具体的に検討を進めていかなければならないと思っている。

委員：市がフォローする地区はどのような過程での選定するのか。

事務局：自主的なやり方がわからない地域もあるので、各協議会単位で事例の紹介等しながら勉強会を開催し、自主的な運行に取り組めるよう市としてフォローをしていく。

会長：地域づくり協議会単位のほか、その中で作ったボランティアグループで通院・通学の足を確保するため自主的な取組を行っている地区もあるが、一方で地域づくり協議会は昭和中期頃までの村の単位を踏襲しており、地区内で話し合う癖を付けて、村単位の文化を残して欲しいという思いもある。

会長：また、住民主体のボランティア運送であっても、運転手をしてくださった方に一定の謝礼を支払える仕組みを作って長続きさせたいと考えている。

委員：有償運送に当たる可能性もあるので、仕組みを考える際は運輸支局に相談頂きたい。

委員：単独維持困難申出路線を評価し、維持となった場合は自主運行路線にするのか、事業者運行として存続するのか。また、これらを判断する流れが必要と思慮する。

事務局：基本的には評価をもって個別に判断していくため、事業者運行のまま維持するか、自主運行路線とするかはケースバイケースとなる。尚、ガイドラインは未だ確定ではないので、ご意見を反映させていきたいと考えている。

委員：評価を進めていくと、朝夕の運行を残し、昼間が減便という結果が想定されるが、乗務員不足の中で朝夕だけの人員を確保することは難しいと感じている。

会長：伊豆市は観光で路線バスを利用する人も多く、来訪者や外国人観光客の事も考慮すると昼間の運行が無いという事は避けたい。それぞれの実情を伺いながら、方針を決めていきたいと考えている。

委員：情報提供であるが、県の地域公共交通活性化協議会と35市町で交通空白地域にお

けるボランティア交通に関する勉強会を開催するので、参加頂き一緒に勉強していければと思っている。

会 長：本日の協議を踏まえてより実態に合ったガイドラインを策定していく。方針について承認頂けるか、ご審議頂きたい。

<審議>

- ・異議なし、承認

(4) 中伊豆温泉病院線路線等の変更について【協議事項】 (資料4)

<資料説明>

- ・事務局より資料4について説明

<質疑応答>

委 員：小川橋から中伊豆温泉病院まで2.5km程度あるが、同一運賃で問題ないのか。

事務局：県道経由の運賃に合わせて、どちらのルートを選択しても、同じ目的地間で運賃が同じになるように設定した。本件は事業者とも調整し、国交省へ申請を出している。

委 員：運輸支局として問題ないと思慮するが、確認の上後日回答したい。

委 員：修善寺駅から白岩や清水まで、温泉病院線に乗った方が安いということになるのではないか。

事務局：病院と同じで、どちらのルートで行っても同一運賃になるように設定している。

会 長：それでは、現在ご提示の内容で承認頂けるか、ご審議頂きたい。

<審議>

- ・異議なし、承認

(5) 新中学校統合に伴う通学便再編の考え方【報告事項】 (資料5)

<資料説明>

- ・事務局より資料5について説明

<質疑応答>

会 長：駅から中学校まで延伸しないでシャトルバスにするのはどのような考えか。

事務局：通学の時間帯に何台ものバスが中学校まで行くと、中学校周辺の道路が混雑する可能性があり、集約する方向で検討している。

委 員：現状、2km以上の通学については使っても使わなくても通学定期代を市が負担しているが、実績精算などで定期代の財政負担額を下げる事ができれば、その費用をもって貸切バスを運行する方法、また自転車や自家用車の通学に対する手当などの対策を考えていきたい。

アドバイザー：生徒・学生の交通安全に関する視点も考慮していくと良いだろう。

会 長：市長としては無駄な財政負担を押さえたい一方で、通学や部活など、中学生の市内の移動は市が負担できるような仕組みを考えていきたい。

4 その他

事務局：その他、全体を通して質問等があればお願いしたい。

委員：乗車率の向上のため伊豆市や事業者として取り組んでいること、またキロ単価の算出方法について教えていただきたい。

事務局：通勤・通学利用ではそれぞれのニーズに合った運行時刻の調整、通院・買い物利用では免許返納者へいきいきパスなど市の助成制度があることを紹介している。また、子どもだけでなくお年寄り向けの乗り方教室の開催や、令和7年度の新中学校の開校に合わせて市内の公共交通マップを作成して配布予定である。バスの観光利用については、移住者の方々から意見を伺いながら利用しやすい方策を検討していきたい。

また、キロ単価は運行事業者から提出される営業報告書をもとに経費の確認をし、各科目を総走行キロで積み上げた金額を実車走行キロで割って算出している。経費の算定方法について県や運輸支局にも確認をしており、今年度は営業報告に基づき各科目の詳細説明を受けるなど、経費算出の監査をしっかりとしていきたいと考えている。

会長：今回はバスのテーマがほとんどであったが、伊豆半島を中心とした小さな旅を取り組むことにより各鉄道の利用促進を進めていきたい。また、タクシーについてもアプリの導入で利用しやすくなるので、事業者としても検討を進めていただきたい。

委員：柏久保と遠藤橋のバス停に、下校時には雨除けのひさしが必要と思う。

委員：柏久保は市の防災倉庫があるので活用していきたいと考えている。遠藤橋も来年度測量を行う予定なので、歩道・バス停を含めた検討を行い、開校までに対応できるように考えている。

5 閉会